

はん人の思がえがえ

~荘田平五郎没後100年プロジェクト~



ここは日本の首都、東京。

東京駅と皇居のすぐ近くに、『丸のとうきょうえき こうきょ ちか まる

内』という場所があります。高層ビルが
うち

立ち並び、大企業の本社などがたくさた。なら、だいきぎょう ほんしゃ

ん立地する日本一のオフィス街です。

実は、このオフィス街を作った人こじつ

そ、臼杵出身の実業家 荘田平五郎ないごろう

のです。

まるのうちしゅうへん おおてまち ゆうらくちょう やく じぎょうしょ やく まんにん はたら 丸の内周辺(大手町、有楽町含む)には約4,300 もの事業所があり、約28万人が働い っすきし じんこう やく ぱい にんずう ています。これは臼杵市の人口の約8倍にあたる人数です。

さて、時は江戸時代の終わり、臼杵市がまだ臼杵藩と呼ばれていた頃。 うすきし うすきはん

弘化四年(一八四七)、荘田平五郎は臼杵の塩田(臼杵幼稚園の跡地あたり)で生まれまこうかよねん

した。

うすきはん 臼杵藩の藩士の家で育った平五郎は、丸顔で目がうすきはん。はんし、いえ、そだ、へいごろう、、まるがお、め

大きく美男子、とても上品な顔だったと言われてい

はなんし

じょうひん

かお

ます。

彼は臼杵藩の「学古館」という学校に八歳から通かれ、うすきはんがっこかんがっこうはっさいから

っていました。そこで神童と呼ばれるほど、頭の良しんどう。ょ

い少年でした。



その頃の臼杵藩はとても貧しく、贅沢を禁止する改革の最中でした。けれど、将来ころ、うすきはん
まず
・戦いたく
きんし
・かいかく
さいちゅう

藩を担う優秀な子供を育てるための費用は惜しまず、勉強の場として作ったのが でんきょう ば

「学古館」でした。

この学古館の先生は、『白石照山』とがっこかん せんせい しらいししょうざん

いう人で、中津藩から臼杵に来た有名

な学者でした。



平五郎は、照山先生やほかの先生方のもとで多くの生徒たちと一緒に学問に励み、へいごろう しょうざんせんせい せんせいがた おお せいと いっしょ がくもん はげ

常に抜群の成績をとりつづけた秀才でした。
っね ばっぐん せいせき

そんな優秀な平五郎にもつと勉強をさせて

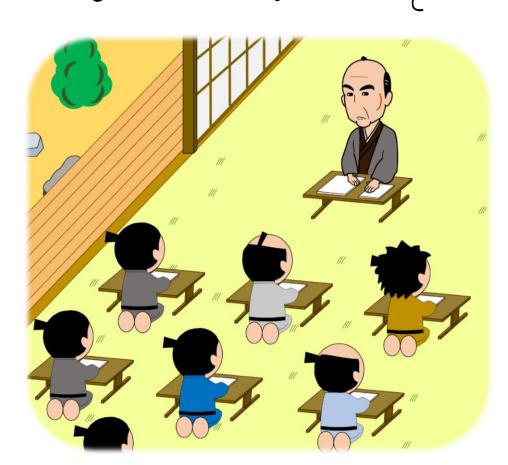
あげたい、と考えた臼杵藩は、江戸(今のかんが うすきはん えどいま

東京都)や薩摩(今の鹿児島県)へ留学させました。とうきょうと
さつまいまかごしまけん
りゅうがく

平五郎は、江戸では英語を、薩摩では洋学へいごろう えど えいご さっま ようがく

(西洋の科学や技術、西洋社会の様子など)を学びましせいよう かがく ぎじゅつ せいようしゃかい ようす まな

た。



ちょうど時代は江戸から明治に代わった頃でした。

明治三年、平五郎は福沢諭吉が開いた「慶應義塾」に入りました。めいじさんねんへいごろう、ふくざわゆきち、ひら、 けいおうぎじゅく はい

福沢諭吉は、みなさんもよく知っている、一万円札に描かれている。ヘィンざわゅき ち いちまんえんさつ

ことで有名ですが、彼は平五郎だけでないかれ、へいごろう

く、多くの臼杵藩の若者をこの塾で学ばせ

実はこれには理由があるのです。

学問をすすめる男!



諭吉は江戸に出るずつと以前、照山先生を訪ねて、中津藩から臼杵藩に来たことゅきち えど で いぜん しょうざんせんせい たず なかつはん うすきはん き

がありました。

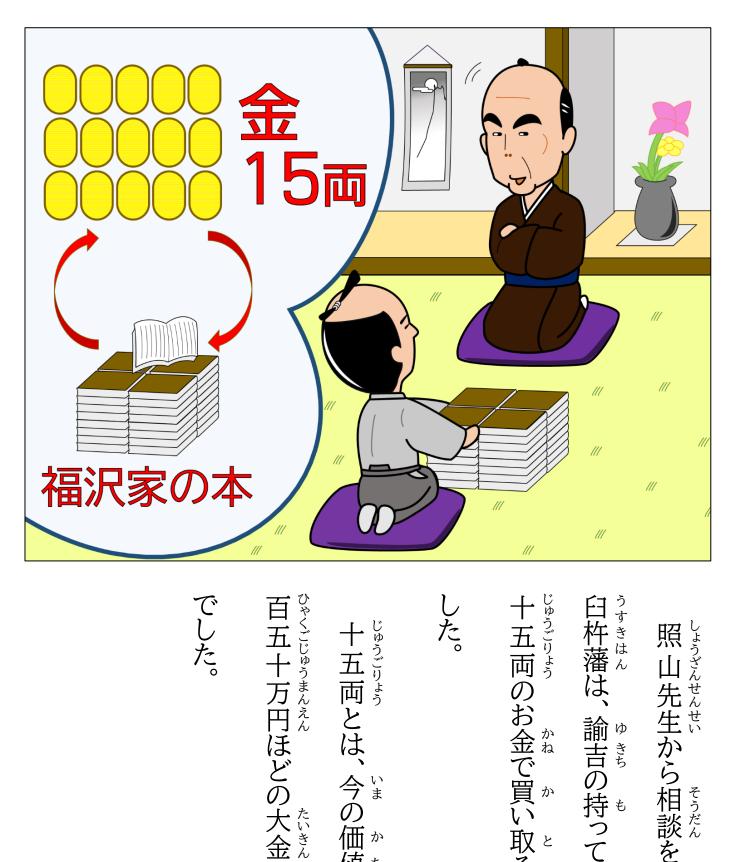
諭吉は照山先生が中津にいた頃の教え子でした。そして、家が貧しく、勉強するおゅきち しょうざんせんせい なかっ ころ おし ご

金が足りないため、自分の本を買ってほしい、と照山先生にお願いするために臼杵まがね。た ほん

でやって来たのです。

諭吉のことを、「将来きっと立派な学者になる」と考えていた照山先生は、彼のたゅきち しょうざんせんせい かれ

めに何とかしてあげたいと思い、臼杵藩のお役人に相談しました。



照山先生から相談を受けたしょうざんせんせい
そうだん
う

臼杵藩は、諭吉の持ってきた本を

らすきはん ゆきち も ほん

十五両のお金で買い取ることにしまじゅうごりょう かね か と

した。

でした。

この時、臼杵藩が福沢 ゅきち か と 論吉から買い取ったたくさんの本は、 いま うすき し ほかん 今も臼杵市が保管しています。

十五両とは、今の価値でいうと、

臼杵藩のおかげもあり勉強を重ね、慶應義塾を開いた諭吉は、臼杵から来た べんきょう けいおうぎじゅく

平五郎という若者の有能さを見抜き、わずか二十四歳という若さで塾の教師に選びへいごろう おかもの ゆうのう みぬ にじゅうよんさい わか じゅく きょうし えら

ました。

留学や奨学金という形で、臼杵藩に育ててもらりゅうがく しょうがくきん かたち うすきはん そだ

った平五郎が、今度は人を育てる側になりました。へいごろう。こんど、ひと、そだ、がわ

本がつないだ縁が、この慶應義塾で日本の発展のほん

げんどうりょく 原動力となる人々を多く育てることになっていくの ひとびと おお そだ

です。



平五郎は教師をしながらも、その才能を実業家として試したいと思っていました。^いごろう きょうし じつぎょうか

諭吉もまた、日本が新しい時代を作っていくため、才能のある人をどんどん世の中ゅきち にほん あたら じだい っく

に送り出すことが、この塾の役割だと考えていました。 ょく だ

そんなこともあり、諭吉のすすめを受

け、平五郎は二十七歳の時に、教師を辞へいごろうにじゅうななさいとき、きょうしゃ

め、諭吉が有能な実業家と認めていたゅきちゅうのう じつぎょうか みと

岩崎弥太郎が設立した「三菱商会」にいわさきゃたろう せつりつ みつびししょうかい

入社することになりました。

三菱財閥を創った男! 岩崎 弥太郎

まめちしき とうじ だいがく そつぎょう ひと かんりょう がくしゃ ~豆知識④~ 当時、大学を卒業した人は官僚や学者になる しょうだへいごろう みつびししょうかい にゅうしゃ のがほとんどであり、荘田平五郎の三菱商会への入社は、にほん みんかんきぎょう しんそつさいよう だいいちごう 日本の民間企業の新卒採用の第一号ともいわれています。

みつびししょうかい 三菱商 会とは、今の三菱グループの前身となる会社で、日本を代 表する大財閥で みつびし かいし に ほ

平五郎はこの会社で実業家として活躍していきます。へいごろう

り上げたりしました。重役として、またぁ

支配人として、あらゆる分野でその才能を
しはいにん
いいのう

発 揮 き た平五郎は、やがて、『三菱の大番頭』へいごろう

と呼ばれるようになっていきます。

の導入、素頼に応じたホーテスの支稿、利学省の
ていきさいよう
定期採用などがあげられます。
いま かいしゃ ぁ まえ
どれも今の会社では当たり前になっていますが、
とうじ かっきてき にほんけいざい きんだいか
当時としては画期的なことで、日本経済の近代化に
おお こうけん い
大きく貢献したと言えるのではないでしょうか。

まめちしき ばんとう みせ けいり えいぎょう ~豆知識⑥~ 番頭とは、お店などの経理や営業といった仕事全てを預かる人のこと。大番頭ということは みつびし かいしゃ へいごろう 言葉からも、三菱という会社にとって平五郎がなくてはならない存在だったことがわかります。

平五郎は三菱に関連する様々な会社の設立に関わったり、会社の経営システムを作へいごろう。みつびし。かんれん。 さまざま かいしゃ せつりつ かか みつびし

10

平五郎が関わった会社は、三菱商会だけでなく、今の日本郵船、東京海上日動へいごろう かか かいしゃ みつびししょうかい みつびししょうかい

火災、明治安田生命、みずほ銀行、三菱重工長崎造船所など、いろいろな業種でその めいじやすだせいめい ぎんこう みつびしじゅうこうながさきぞうせんしょ

後の日本経済の中心となる大企業ばかりです。

しかも、これらは彼が関わった会社のほんの一部にすぎないと言うから驚きです。

そんな中の一つにビール会社の設立があります。

彼は、新しいビールの銘柄を決めるとき、外国のビールが猫やオオカミを使っていかれ、あたら、めいがら、き、がいこく めいがら

るのに対抗して、東洋の霊獣である「麒麟」を採用することにしました。 とうよう れいじゅう きりん さいよう

今も有名な『キリンビール』の誕生です。いま ゆうめい

麒麟は、いろんな動物の体を合わせ持った架空の生き物であり、優秀な人を呼ぶきりん

ときの例えとしても使われる言葉です。

キリンビールはそれほど優れたビールなんだ、と

いう平五郎の強い意気込みが感じられます。

そして、平五郎本人も、大変なビール好きだった、へいごろうほんにん たいへん ず

と言われています。

キリンビールの



明治二十二年、四十二歳になった平五郎は、造船業界の視察のために、イギリスにめいじにじゅうにねん よんじゅうにさい へいごろう ぞうせんぎょうかい しさっ

行っていました。

ある日、『日本の陸軍の土地(今の東京・丸の内あたり)が売りに出されているが、まった
ひ にほん りくぐん とちいまとうきょう まる うち

く買い手がつかない。』という新聞の記事を目にします。

それを見た平五郎は、イギリスから日本の岩崎社長に急いで電報を送ります。

|丸の内買い取らるべし」(丸の内の土地を買い取るべきです)| まる うち と ち か と

平五郎は、寂れて買い取り先が見つからないような 状態だった丸の内こそが、イギへいごろう きび か と さき み

く見抜き、三菱商会にこの土地を買うよう働きかみぬ。 みつびししょうかい とち か はたら リスの首都ロンドンのようなオフィス街にふさわしい場所だ、ということを誰よりも早いスの首都ロンドンのようなオフィス街にふさわしい場所だ、ということを誰よりも早になっている。

けたのです。

そして、三菱商会が買い取った丸の内は、

平五郎が思い描いたとおり、その後、赤レンへいごろう おも えが

ガの建物が立ち並ぶ近代日本の象徴ともたてもの た なら きんだいにほん しょうちょう

言えるオフィス街へとなっていくのでした。



みなさんは、こんなに素晴らしい功績を残した先輩が臼杵から生まれたということ す ば こうせき のこ せんぱい うすき う

を知っていましたか?

荘田平五郎のことを初めて知ったという人も多いのではないでしょうか。

実は、平五郎は誰もが知っている、みなさんにとてもなじみのある場所を作ってくれじっ、へいごろう、だれ、し

た恩人でもあるのです。

それが大正七年に建てられた臼杵図書館、今のこども図書館です。



実業家として成功を収めた平五郎じつぎょうか
せいこう
おさ
へいごろう

は、ふるさと臼杵への恩返しにと、

自分のお金で図書館を建て、それをじぶん かね としょかん た

寄付してくれました。

しかも、寄付してくれたのは、建物たてもの

だけではありませんでした。



ありとあらゆるものをプレ

ゼントしてくれたのです。

つまり、図書館に関する、

を収める書庫、トイレや管理人の部屋、

運営するためのお金まで寄

付してくれたのです。

図書用具、テーブル、その後図書館をとしょようぐ

本を三千冊、雑誌が二千冊、土地、本はんさったが、だっしにせんさったりに、土地、本

当時、本は高価で貴重なものだったので、公共の図書館がなかった臼杵では、誰でとうじ ほん こうか きちょう

も本を読むことができるわけではありませんでした。

市民が誰でも利用できる図書館を作ることが、平五郎のこだわりでもありました。

しみん
だれ
りょう
としょかん
つく

「ふるさと臼杵よ、文化の光に浴せよ」

そして、より美しい臼杵に成長せよ」

こう望んだ平五郎の思いは、臼杵の人に大きく響きました。
のぞ へいごろう おも うすき ひと おお ひび

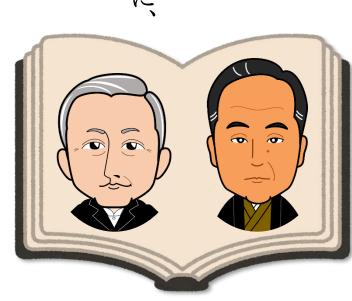
図書館建設から四年後、荘田平五郎は七十四歳でこの世を去りました。としょかんけんせつ よねんご しょうだへいごろう ななじゅうよんさい

本を買い取ってくれた臼杵藩に、

人を育てることで恩返しした。福沢諭吉。
ひと そだ おんがえ ふくざわゆきち

その諭吉のもとで学び、自分を留学させてくれた臼杵藩に、 じぶん りゅうがく うすきはん

本を贈って恩返しした 荘田平五郎。 しょうだへいごろう



本でつながった臼杵藩と福沢諭吉。そして、そのことでつながった荘田平五郎。

うすきはん

19

巡り巡った、未来ある若者達を応援した臼杵のまちへの「本の恩返し」というお話。
めぐ めぐ みらい わかものたち おうえん うすき

かつて、臼杵図書館の掲示板には、

「読書する人は、日々に新たなり」という言葉が書かれていたそうです。どくしょ ひと ひび あら

この言葉は「本を読む人には、毎日新しい発見があるんですよ。」という意味です。 はっけん

みなさんもいろいろなことに興味を持って、昔の人からの贈り物である図書館をた

くさん利用して、平五郎の心を大事に残していきましょう。 りょう へいごろう ころ だいじ のこ

(おしまい)

しょうだへいごろう しょうがい 荘田平五郎の生涯

西暦	年齢	できごと	国内の主なできごと
1847	0	臼杵市塩田に生まれる(P2)	
1854	7	白石照山が学古館の先生に(P3)	日米和親条約
1855	8	学古館に入学(P2)	安政の大地震
1856	9	福沢諭吉の蔵書を臼杵藩が買い上げる(P6·7)	
1867	20	江戸(東京)へ留学(P4)	大政奉還
1868	21	鹿児島へ留学(P4) 福沢諭吉と出会う	戊辰戦争、明治維新
1869	22	再び東京へ	東京遷都、版籍奉還
1870	23	慶應義塾入塾(P5)、その後教師へ(P8)	
1875	28	三菱商会に入社(P9) 三菱汽船会社社則を起草	
1877	30	郵便汽船三菱会社簿記法を制定	西南戦争
1878	31	改正三菱社則を起草 藤岡田鶴と結婚	
1879	32	東京海上火災保険を開業→役員就任(P11)	
1881	34	明治生命保険を開業→役員就任(P11)	
1885	38	日本郵船会社を設立→役員就任(P11)	
1887	40	東京倉庫の創立	
1888	41	キリンビールの名付け親になる(P12)	
1889	42	イギリスより「丸の内買い取らるべし」の電報(P13)	大日本帝国憲法発布
1894	47	三菱合資会社支配人へ	日清戦争
1897	50	長崎造船所支配人へ	
1899	52	三菱造船所工業予備学校設立	
1902	55	勲五等瑞宝章	日英同盟締結
1906	59	勲四等旭日小綬章	
1910	63	三菱合資会社を依願退職	
1917	70	明治生命保険会社取締役会長に就任	
1918	71	臼杵図書館(今のこども図書館)設立(P15~)	第1次世界大戦終結
1922	74	4月30日永眠(P19)	



^{ほん おんがえ} 本の恩返し

令和4年4月 編集 荘田平五郎没後100年プロジェクト 発行 臼杵市役所 秘書・総合政策課

※「心の響き(平成 16 年 11 月臼杵市教育委員会発行)」をもとに編集したもの